令和８年度小平市立小平第十五小学校～「全国学力・学習状況調査」結果概要～

１　調査目的・対象

児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、今後の児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるための調査です。

２　調査内容

（１）教科に関する調査

身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等、また、知識・技能を実生活の様々な場面で活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関することを児童が答える調査です。

（２）生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関することを児童が答える調査です。

３　各教科の調査結果の分析

【国語】

状況の分析

「知識・技能」と「思考・判断・表現」の双方で全国平均を上回っていた。特に情報の扱い方に関する項目では、全国平均より 11.6 ポイント高かった。書くことに関する項目で全国平均は上回っているものの、他項目と比較し正答率が低かった。

課題

「自分の考えが伝わるように工夫してまとめる」「話の中心が明確になる構成を考える」「自分の経験と結びつけて書く」、これらの力に課題が残る。全体として、書くことに関する問題に課題があり、改善する必要がある。

学校で取り組む具体的な改善策

書くことに関する力を定着させるために、授業の中で文章全体の構成を意識させながら、要旨をまとめたり、自分の意見と、その根拠（理由や事実）を合わせて書いたりする活動を計画的に取り入れる。また、作文や意見文では、思いついた順に書くのではなく、説得力のある「型」にあてはめて書く練習の時間を確保し、「はじめ・中・終わり」の構成を考えるとともに語彙を増やし、記述力の育成を目指す。

【算数】

状況の分析

「知識・技能」と「思考・判断・表現」の双方で全国平均を上回っていた。特に、概数に関する問題では、全国平均より 11.3 ポイント高かった。

データの活用の領域は、全国平均を上回っているものの、他領域と比較し正答率が低かった。全国、東京都と比べ、ほぼ全ての問題で無回答率が低く、自分の考えを表現することができていた。

課題

二次元表を読み取る問題では、条件に合う数を読み取ることができなかった。条件の文章を読み取る力と、表の見方の理解に課題がある。

単位量当たりの大きさに関する問題では、式の意味を正しく説明することができなかった。考え方が複数あるとき、どの考え方で求めているのか判断することに課題がある。

学校で取り組む具体的な改善策

問題文を読み取る時間を確保し、短い文で言い換えたり、数直線に表したりする等、場面の把握が正しくできるようにする。グループや全体で自分の考えを交流し合う問題解決型の授業の展開を実施し、友達の考えを聞いて説明する機会を多くする。苦手な内容については、朝学習の時間を使い、ベーシックドリルや学習者用端末を使った問題演習を行って学力の定着を図る。

【質問紙】　　状況の分析　　課題

状況の分析	課題
生活習慣についての質問に対しては、おおむね規則正しい生活を送られていることが分かった。自己肯定感が高い児童が多く、学習への意欲も高かった。一方、家庭学習や読書をする習慣があまり身に付いていないことが分かった。また、SNSや動画の視聴の時間が都の平均より長く、平日３時間以上の児童が約４０％いることが分かった。	本校児童は、基本的な生活習慣や道徳心、規範意識等はしっかりと身に付いていることが分かる。一方、家庭学習の時間については課題が見られる。その背景の一つとして、SNS や動画の視聴時間が長いことが考えられる。そのため、メディア利用と家庭学習のバランスを意識した生活習慣の改善が必要である。

学校で取り組む具体的な改善策

○家庭学習や読書の習慣を身に付けさせる
- 宿題や自主学習に継続的に取り組めるように、内容や時間の目安を示す。
- 朝読書や読書週間、おすすめの本の紹介などの活動を継続的に実施し、本に親しむ機会を増やす。
- 家庭と連携を図り、日常的な学習習慣の定着を図る。

○メディア利用時間の適正化を図る
- メディア利用の実態を把握し、家庭と連携して利用時間やルール作りを推進する。
- 情報モラル教育を充実させ、動画やＳＮＳとの上手な付き合い方について考える機会を設ける。